

県民への意識調査結果（アンケート調査）

1. 調査概要

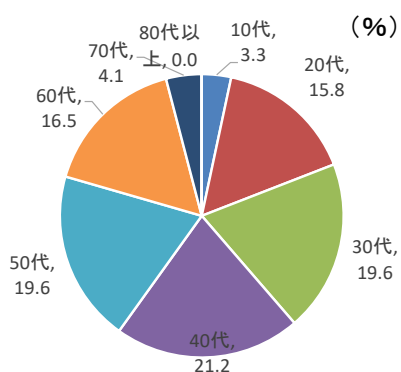
県民へのアンケート調査 調査概要

調査対象	沖縄県民
調査手法	WEB アンケート
調査期間	令和3年10月18日～10月21日
標本数	419件
アンケート調査結果	<ul style="list-style-type: none">・ 調査結果概要（県全体）・ 離島地域を抽出した調査結果概要 （標本数：県全体の約5%）・ 性別、年齢別での調査結果概要

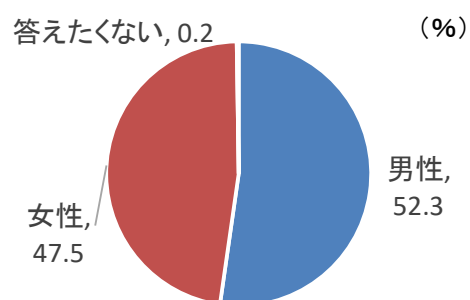
2. 調査結果

【回答者の属性】

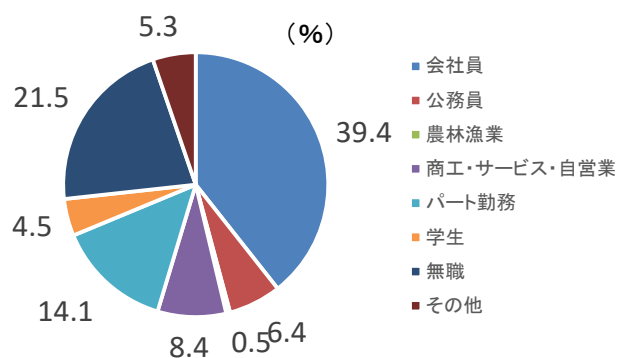
①年齢



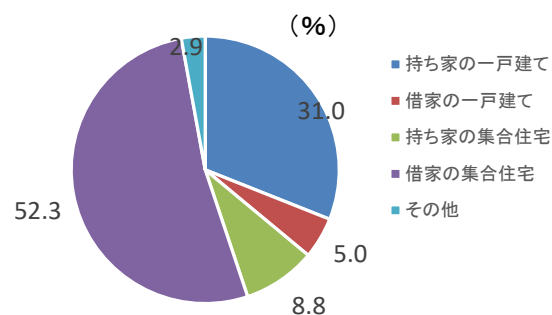
②性別



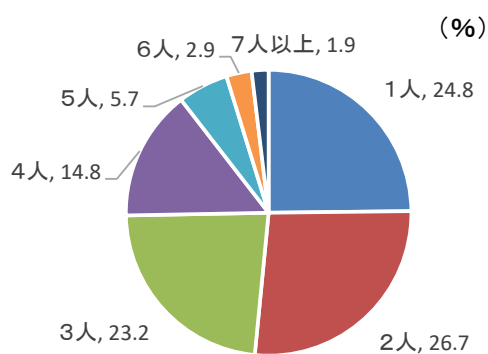
③職業



④居住形態



⑤世帯人数

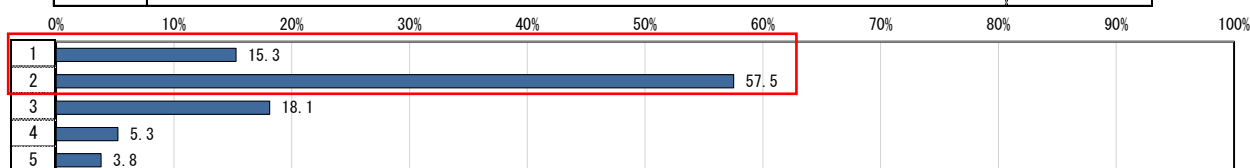


問 1 あなたはプラスチックごみによる環境汚染の問題について、どのくらい関心がありますか。

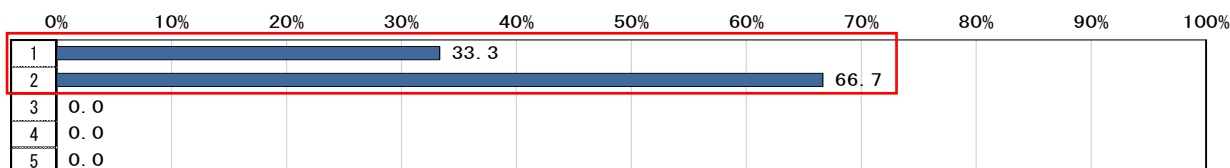
- ・プラスチックごみによる環境汚染の問題の関心度については、「非常に関心がある」15.5%、「ある程度関心がある」57.5%で合計73%となり関心度が高い結果であった。
- ・さらに離島地域で見ると、関心度の合計は100%となり、離島地域住民におけるプラスチックごみ問題に対する関心度が非常に高い結果となった。

【県全体】

全体		%
1	非常に関心がある	15.3
2	ある程度関心がある	57.5
3	あまり関心がない	18.1
4	全く関心がない	5.3
5	わからない	3.8

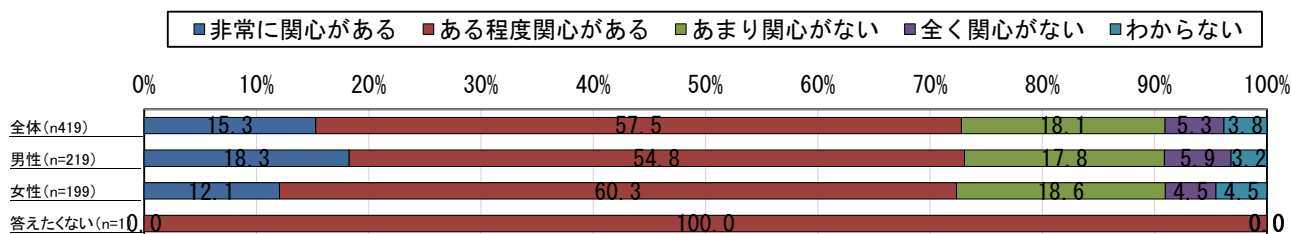


【離島（本島以外の市町村）】



【性別】

- ・性別による関心度では、男女ともにほぼ同程度の割合の結果となった。

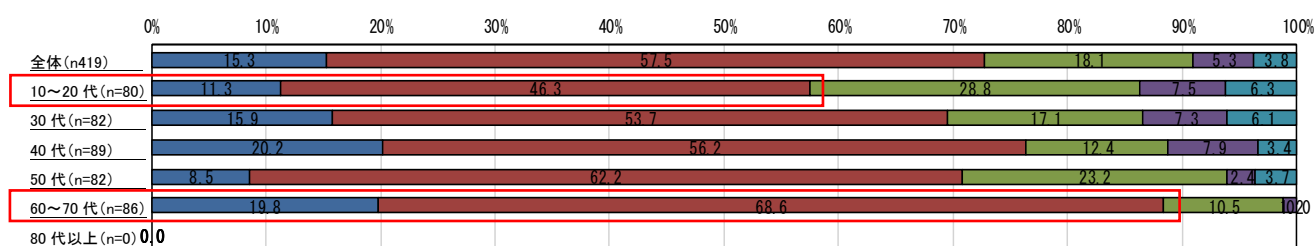


【年齢別】

・年齢別による関心度では、60～70代が8割以上で最も高く、10～20代が6割弱で最も関心度の低い結果であった。

		全体	非常に関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	わからない
全体 (n=419)	%	100.0	15.3	57.5	18.1	5.3	3.8
10代～20代 (n=80)	%	100.0	11.3	46.3	28.8	7.5	6.3
30代 (n=82)	%	100.0	15.9	53.7	17.1	7.3	6.1
40代 (n=89)	%	100.0	20.2	56.2	12.4	7.9	3.4
50代 (n=82)	%	100.0	8.5	62.2	23.2	2.4	3.7
60代～70代 (n=86)	%	100.0	19.8	68.6	10.5	1.2	0.0
80代以上 (n=0)	%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■非常に関心がある ■ある程度関心がある ■あまり関心がない ■全く関心がない ■わからない

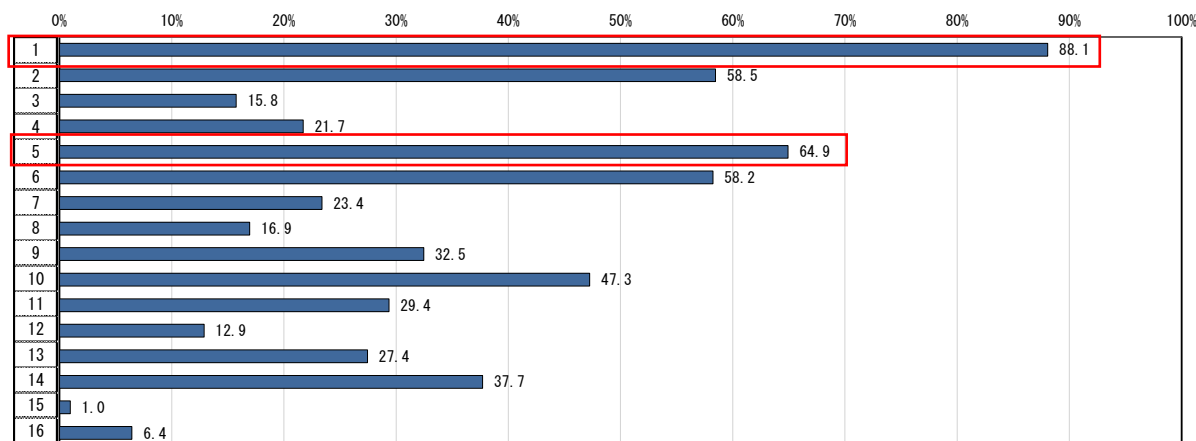


問2 プラスチックごみ問題には、様々な視点があります。あなたが知っていたことについて、次の中から当てはまる選択肢をすべて選んでください。

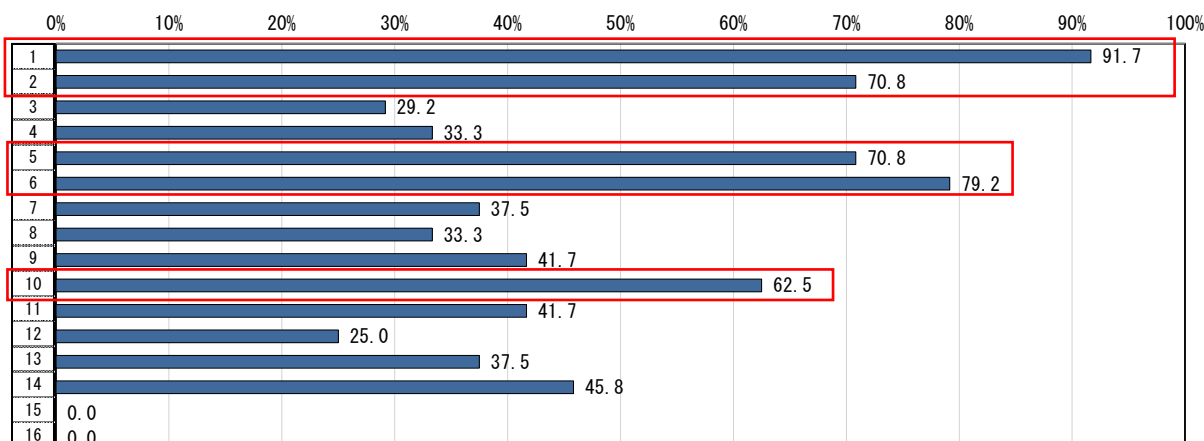
- ・プラスチックごみ問題の認知度については、「海や海岸に捨てられたプラスチックごみにより汚染が生じていること」が88.1%、続いて「多くの生物がプラスチックごみに絡まったりすることで、傷ついたり死んだりしていること」が64.9%となり、具体的なプラスチックごみ問題の内容について、項目によって認知度が高い傾向がみられた。
- ・さらに離島地域をみると、各項目で全体的に認知度が高い傾向がみられ、海や海岸、景観への悪化などへの問題に対しても認知度が高い結果であった。

【県全体】

		%
	全体	100.0
1	海や海岸に捨てられたプラスチックごみにより汚染が生じていること	88.1
2	川や街、農地に捨てられたプラスチックごみが海に流出することで汚染が生じていること	58.5
3	歯磨き粉などに含まれる微小なプラスチック粒が海に流出することで汚染が生じていること	15.8
4	世界の海洋プラスチックごみの総量が、2050年には世界の魚の重量を超えてしまうと予想されていること	21.7
5	多くの生物がプラスチックごみに絡まったりすることで、傷ついたり死んだりしていること	64.9
6	海の生物が小さなプラスチック粒を誤飲するなど生態系に影響が生じていること	58.2
7	マイクロプラスチックが有害な化学物質を吸着する性質をもっていること	23.4
8	プラスチックごみが原因で、船舶のプロペラ破損など航行に障害が生じていること	16.9
9	プラスチックごみが原因で、漁網への混入や破損など漁業に障害が生じていること	32.5
10	プラスチックごみが海岸に漂着し、景観が悪化するなど観光業に悪影響が生じていること	47.3
11	プラスチックの製造過程によるエネルギー使用、焼却時の温室効果ガス排出など、生産、処分、海洋流出は地球温暖化の原因の一つとなっていること	29.4
12	日本のリサイクル率は高いが、その大半が焼却することに伴うサーマル・リサイクル（熱利用）であり、材料資源としての循環は全体の25%程度に留まること	12.9
13	自動販売機隣のリサイクル箱に空き容器以外のものが混ざったり、中身が残ったりする場合リサイクルに支障をきたしてしまうこと	27.4
14	ごみ収集時間を守らずに出されたごみが、カラスや動物に荒らされ、散乱ごみの原因になる可能性があること	37.7
15	その他	1.0
16	いずれも知らなかった	6.4

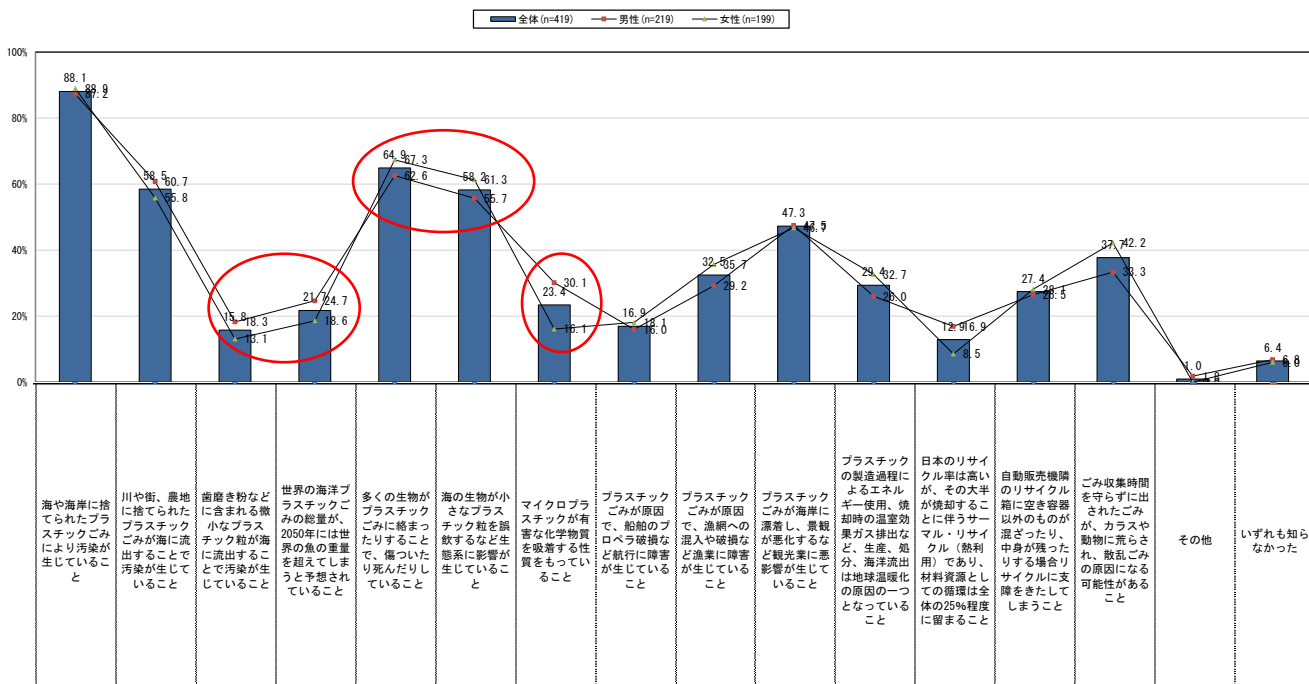


【離島（本島以外の市町村）】



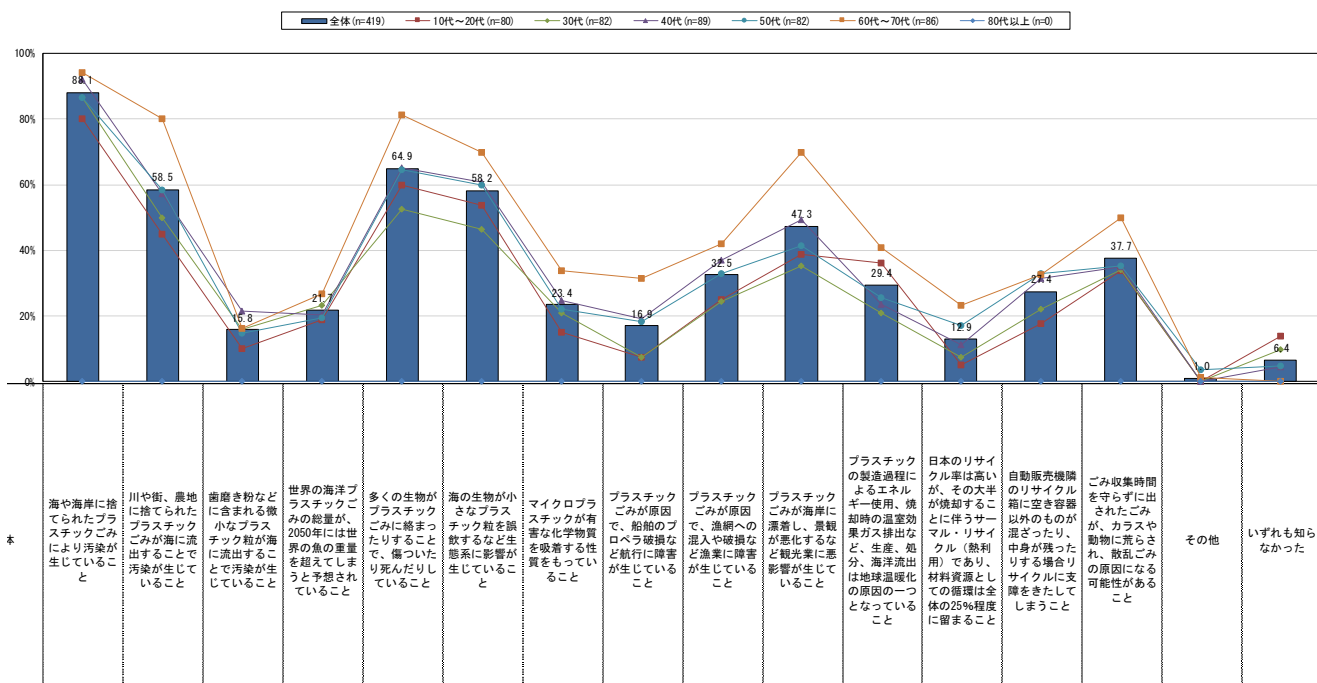
【性別】

・性別による認知度を比較すると、生物への影響などでは女性の割合が高く、プラスチックの成分・性質的な知識に関する割合は男性が高いなど、項目によって男女で認知度が異なる傾向がみられた。



【年齢別】

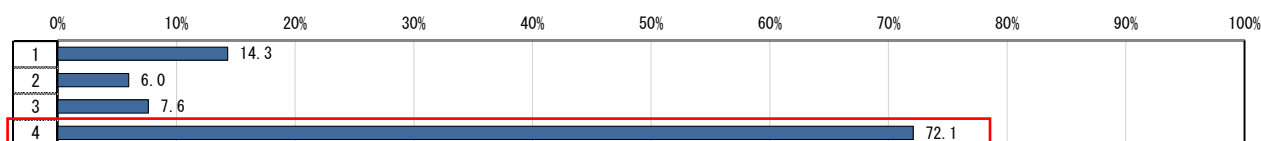
・項目全体的に 60代～70代の認知度が高く、10代～20代、30代が項目全体的に認知度が低い傾向がみられた。



問3 あなたは、直近1週間で、スーパーやコンビニ等での買い物で、レジ袋を何枚購入したり、入手したりしましたか。

・7割以上が購入していないと回答しており最も多い割合であった。2008年の沖縄県によるレジ袋有料化や2020年から開始した国によるレジ袋有料化による効果がみられる。

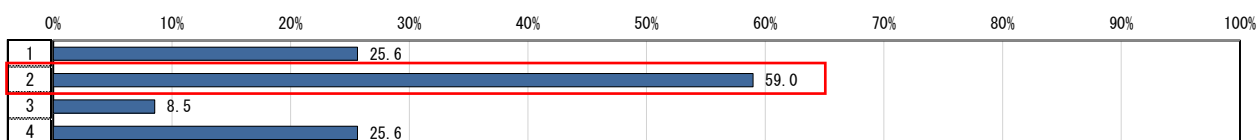
		%
全体		100.0
1	1枚購入	14.3
2	2枚購入	6.0
3	3枚以上購入	7.6
4	購入していない	72.1



問4 前問で「1枚以上購入」した人にその理由をお尋ねします。

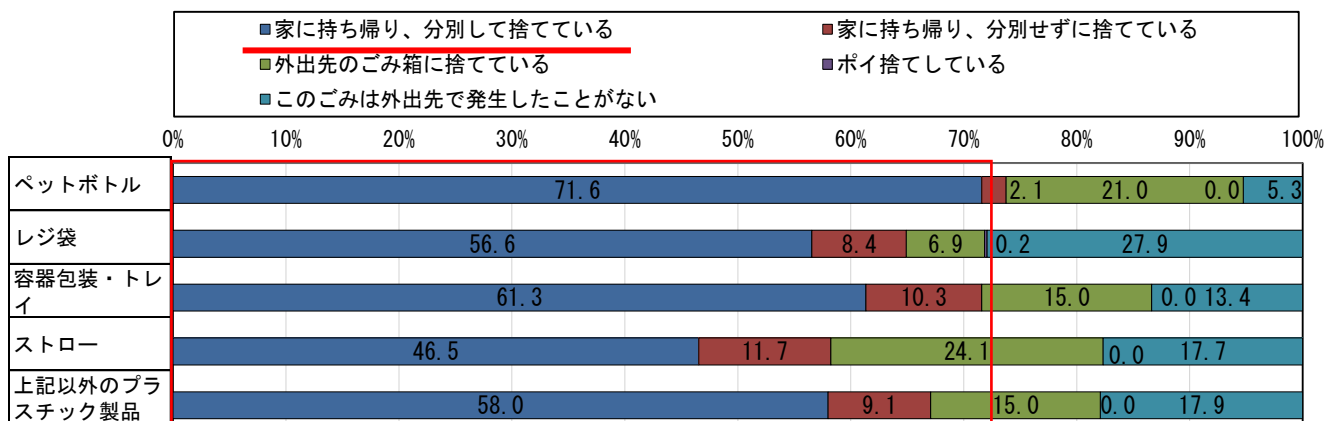
・レジ袋を購入している人は約3割程度であったが、その理由としてごみ袋として活用したいとの回答が約6割と最も多いことから、レジ袋削減の必要性についてさらなる啓発が必要と思われる。

		%
全体		100.0
1	エコバッグやレジ袋を持参するのが面倒	25.6
2	レジ袋をごみ袋として活用したい	59.0
3	エコバッグは衛生面で心配	8.5
4	その他	25.6



問5 外出先で発生したプラスチックごみ（ペットボトル、レジ袋、ストロー、その他容器包装、製品プラなど）をどのように捨てていますか。それぞれもっとも当てはまるものを1つずつ選んで下さい。

・各プラスチックごみで「家に持ち帰り、分別して捨てている」がもっとも多いが、「外出先のごみ箱に捨てている」の割合も比較的高い傾向がみられた。

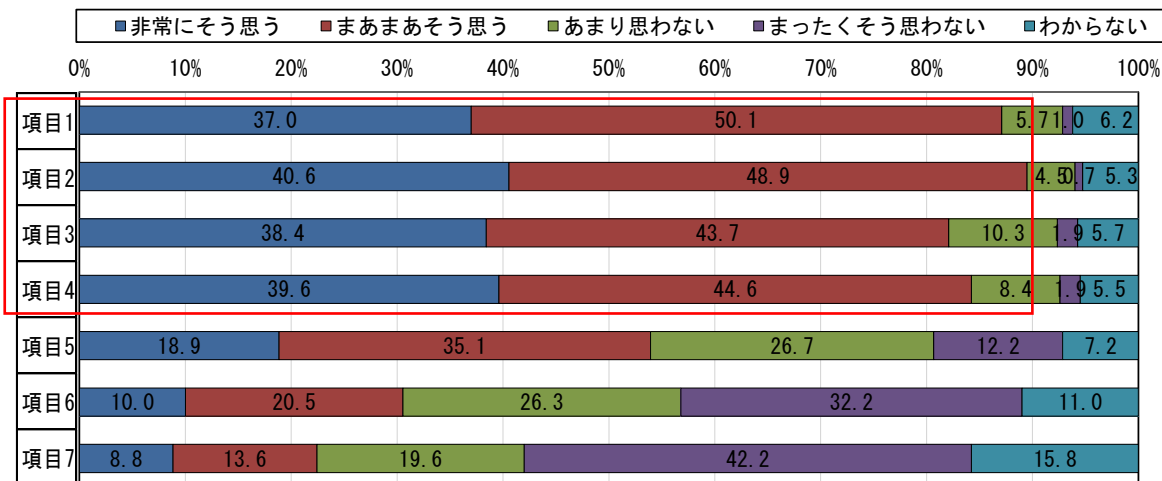


問6 あなたはプラスチックごみによる環境汚染などの問題についてどのように考えますか。それぞれもっとも当てはまるものを1つずつ選んで下さい。

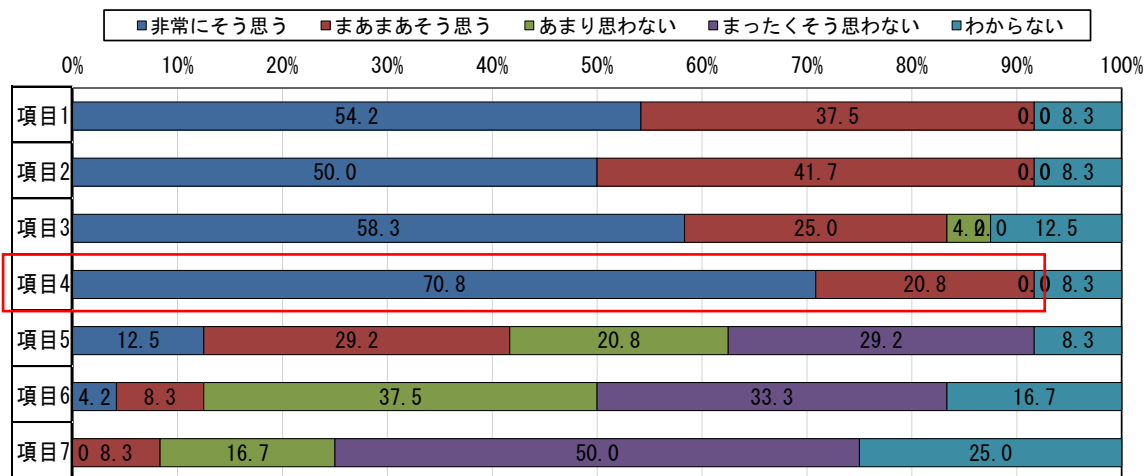
- ・「地域・住民が一丸となって取り組むことが重要である」など取組に前向きな姿勢が見受けられる回答が多い傾向がみられた。
- ・離島のみで見ると、県全体と同様の傾向がみられるが、特に「国や県、市など行政が主体となって対策を進めることが重要である」については、「非常にそう思う」の回答が70.8%と県全体と比較しても高い割合であることが特徴としてみられた。

【県全体】

		非常にそう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	まったくそう思わない	わからない
項目1	地域・住民が一丸となって取り組むことが重要である	37.0	50.1	5.7	1.0	6.2
項目2	自然環境に放出されるプラスチックごみの多くが、日常生活起因であるため、住民一人ひとりの率先した対策が重要である	40.6	48.9	4.5	0.7	5.3
項目3	企業が製品化し、また買い物をするとき必ずついてくるので、企業の取組が重要である	38.4	43.7	10.3	1.9	5.7
項目4	国や県、市など行政が主体となって対策を進めることが重要である	39.6	44.6	8.4	1.9	5.5
項目5	家庭ごみは少量であるため、住民の取組より行政や事業者の取組が重要である	18.9	35.1	26.7	12.2	7.2
項目6	住民全員が一様に取り組むことはできないので、取組はできる人がやればよい	10.0	20.5	26.3	32.2	11.0
項目7	海に漂流・漂着しているプラスチックごみが問題なので、自分たちの生活にあまり影響がない	8.8	13.6	19.6	42.2	15.8



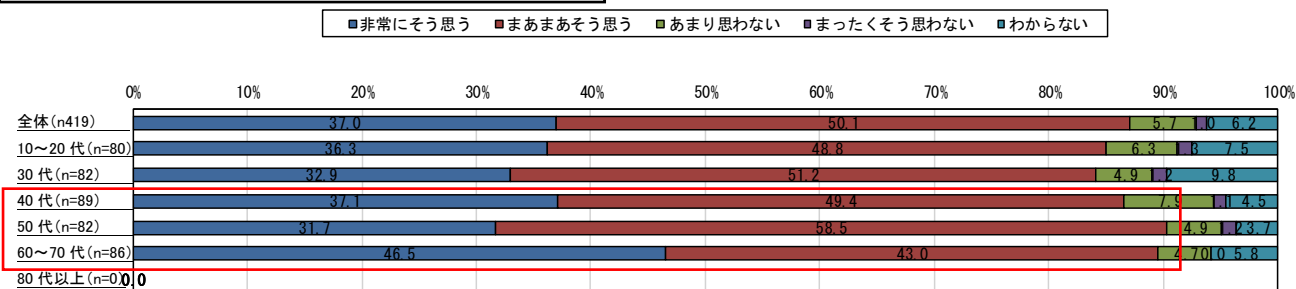
【離島（本島以外の市町村）】



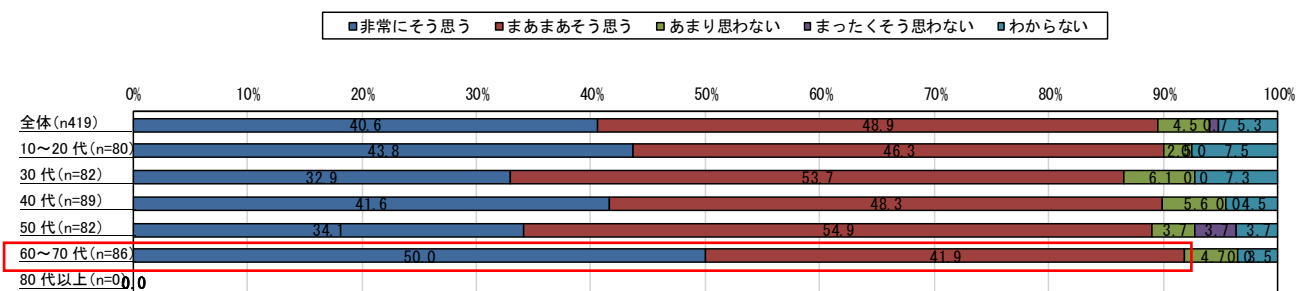
【年齢別】

・年齢別に比較すると、各年代で大きな違いはみられないが、比較的 40 代以上の年齢層がプラスチックごみによる環境汚染問題への取組意識の高さがみられた。10 代～30 代の年齢層については、「海に漂流・漂着しているプラスチックごみが問題なので、自分たちの生活にあまり影響がない」などの回答率が他の年代と比較して高く、取組意識の低い傾向がみられた。

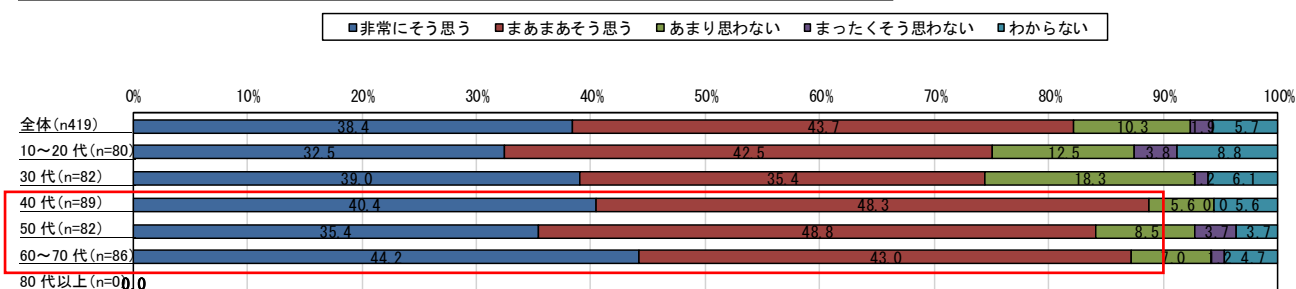
◆地域・住民が一丸となって取り組むことが重要



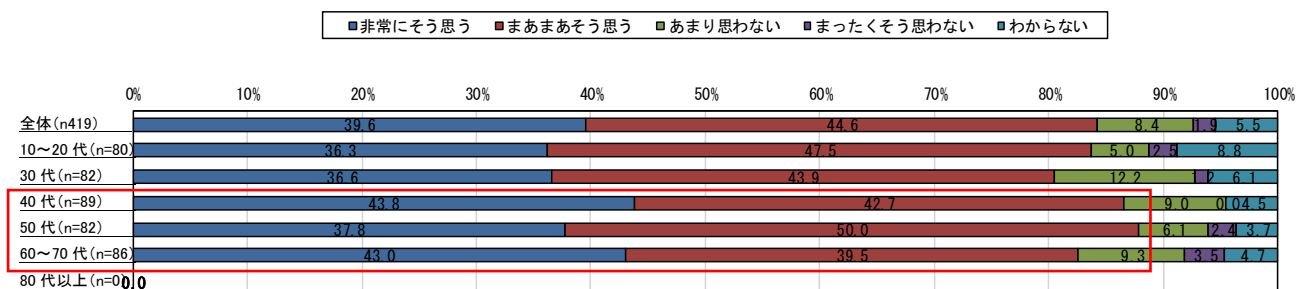
◆自然環境に放出されるプラスチックごみの多くが、日常生活起因であるため、住民一人ひとりの率先した対策が重要



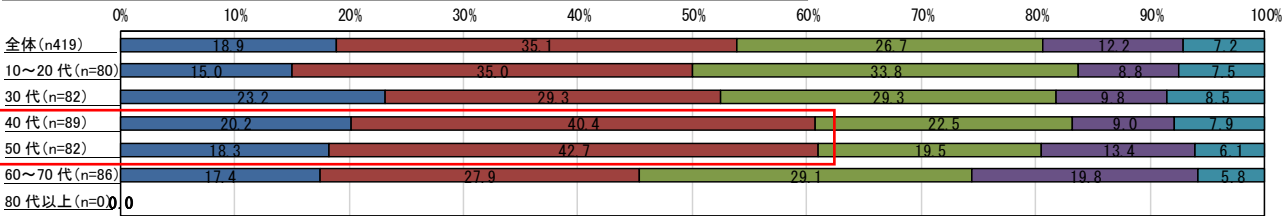
◆企業が製品化し、また買い物をすると必ずついてくるので、企業の取組みが重要



◆国や県、市など行政が主体となって対策を進めることが重要

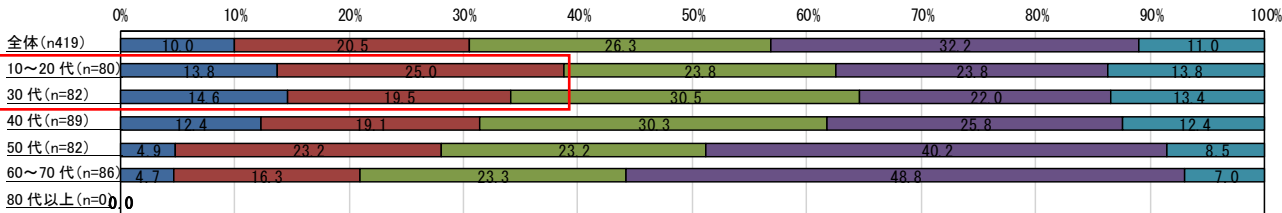


◆家庭ごみは少量であるため、住民の取組より行政や事業者の取組が重要



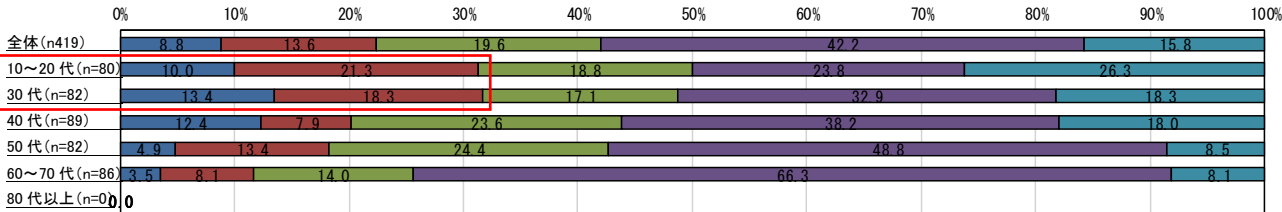
◆住民全員が一緒に取り組むことはできないので、取組はできる人がやればよい

■非常にそう思う ■まあまあそう思う ■あまり思わない ■まったくそう思わない ■わからない



◆海に漂流・漂着しているプラスチックごみが問題なので、自分たちの生活にあまり影響がない

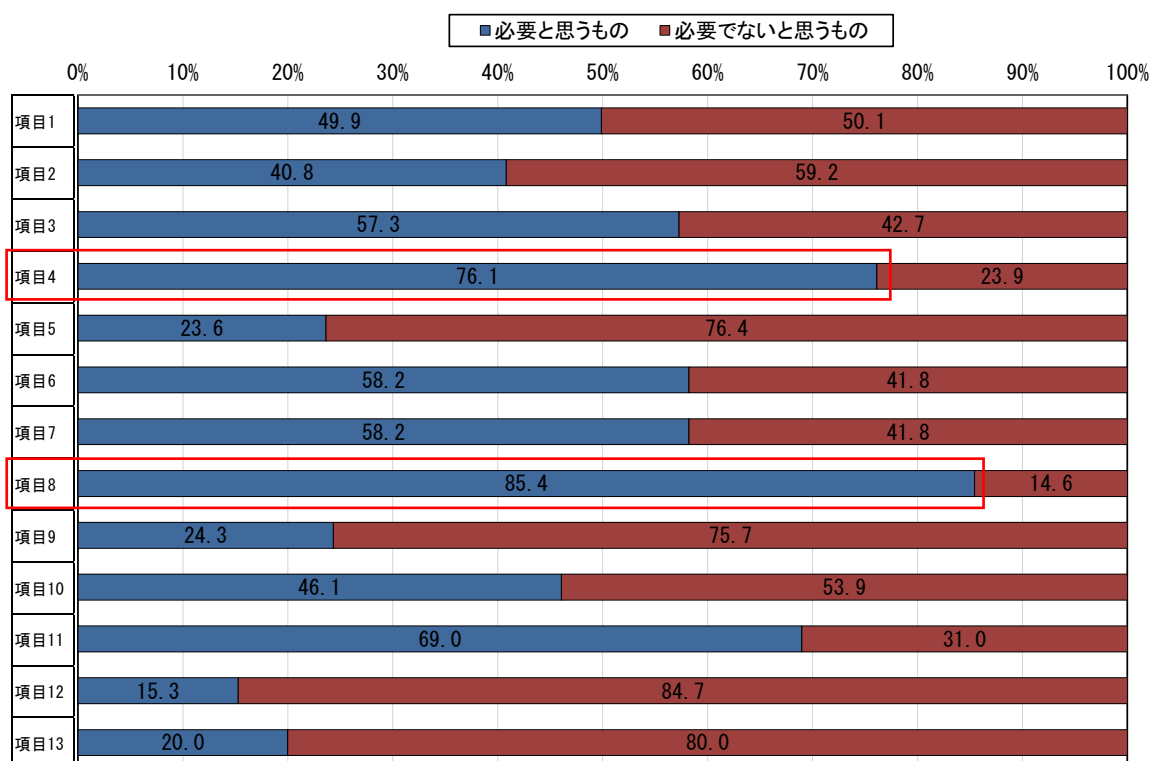
■非常にそう思う ■まあまあそう思う ■あまり思わない ■まったくそう思わない ■わからない



問7 あなたは、プラスチックを使用した様々な商品やサービスの中で、必要だと思うもの・必要でないと思うものがありますか。それぞれについて、必要か必要でないかをお選びください。

・「使い捨てる弁当容器」や「ペットボトル」について必要性を感じている人が多く、「イベントで配布されるうちわ」などについては必要性を感じてない回答者が多い結果となった。

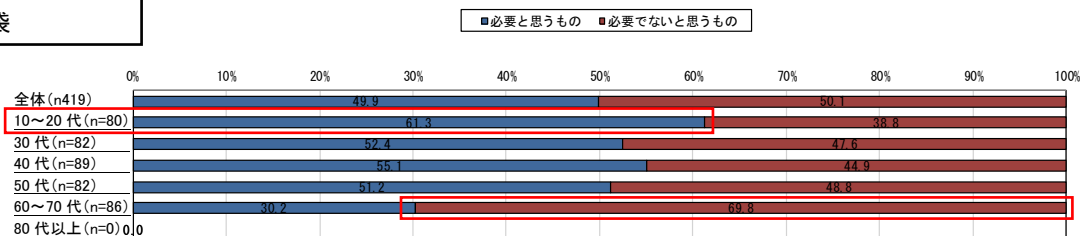
			必要と思うもの	必要でないと思うもの
項目1	レジ袋	%	49.9	50.1
項目2	飲み物と一緒に提供されるストロー・かき混ぜ棒	%	40.8	59.2
項目3	食べ物と一緒に提供されるスプーンなどの食器・おしぼり	%	57.3	42.7
項目4	使い捨てる弁当容器	%	76.1	23.9
項目5	弁当で使う使い捨て小分け用容器や飾り	%	23.6	76.4
項目6	食品トレイ	%	58.2	41.8
項目7	お菓子の個包装	%	58.2	41.8
項目8	ペットボトル	%	85.4	14.6
項目9	ペットボトルのラベル	%	24.3	75.7
項目10	通販などで使用される包装、緩衝材	%	46.1	53.9
項目11	スーパーなどのレジの近くに置いてあるロール状のポリ袋	%	69.0	31.0
項目12	イベントで配布されるうちわ	%	15.3	84.7
項目13	その他（その他に必要・必要でないものがあればお知らせください）	%	20.0	80.0



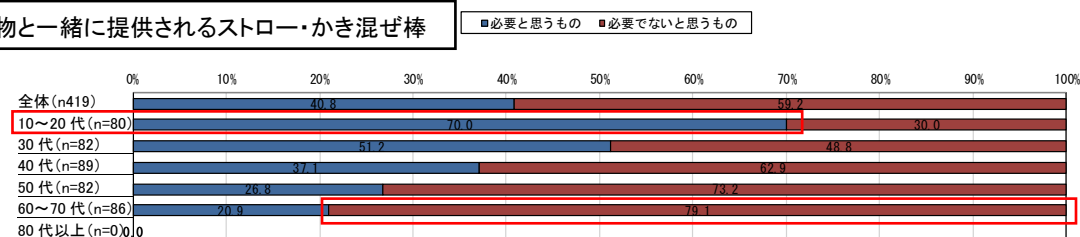
【年齢別】

・年齢別では、特に「レジ袋」「飲み物と一緒に提供されるストロー・かき混ぜ棒」「スプーンなどの食器・おしぼり」などについては 60～70 代の年齢層が必要でないと思う回答が多く、反対に 10～20 代や 30 代の年齢層が必要と思う回答が多い傾向がみられた。

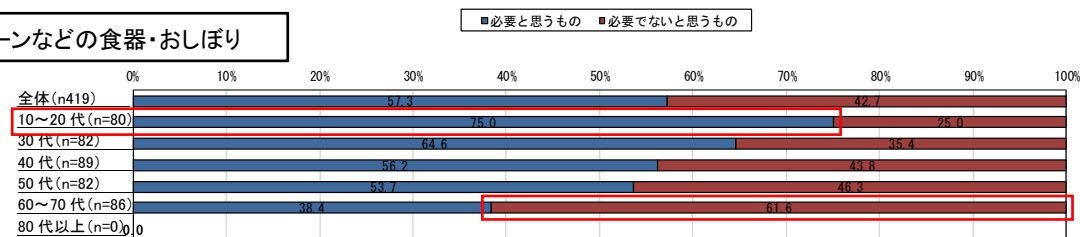
◆レジ袋



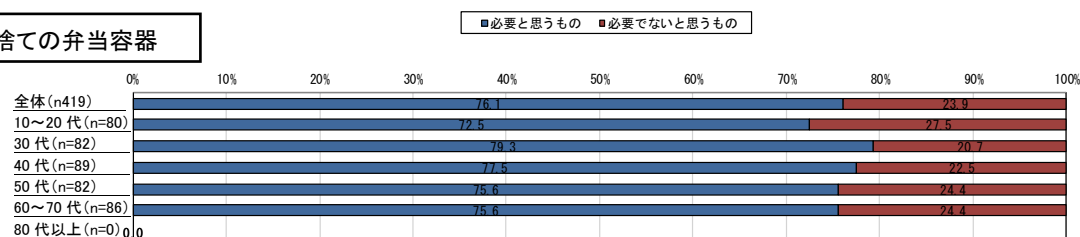
◆飲み物と一緒に提供されるストロー・かき混ぜ棒



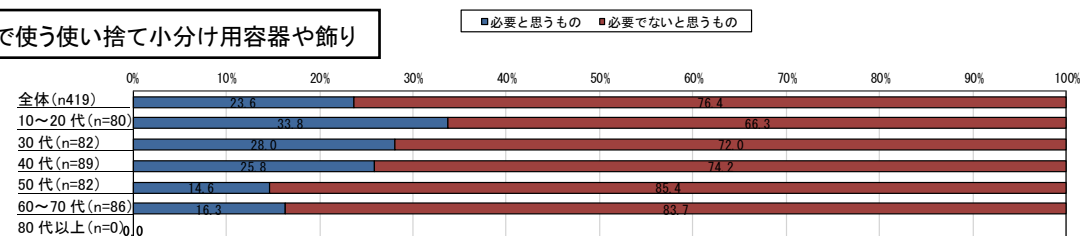
◆スプーンなどの食器・おしぼり



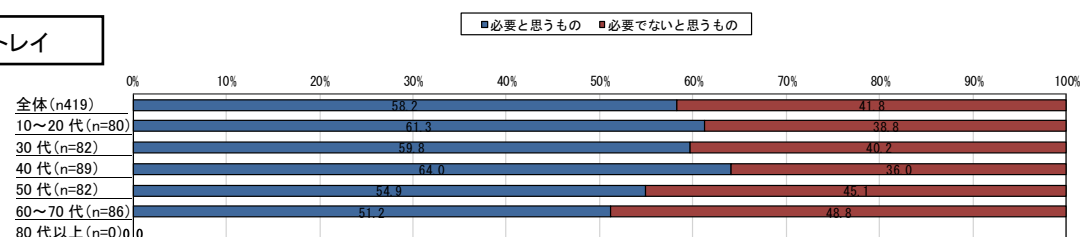
◆使い捨ての弁当容器



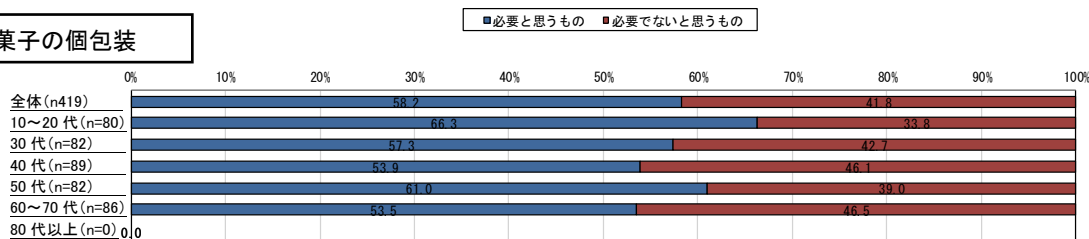
◆弁当で使う使い捨て小分け用容器や飾り



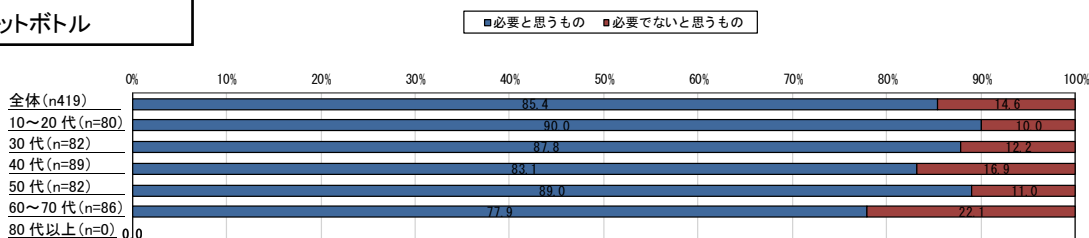
◆食品トレイ



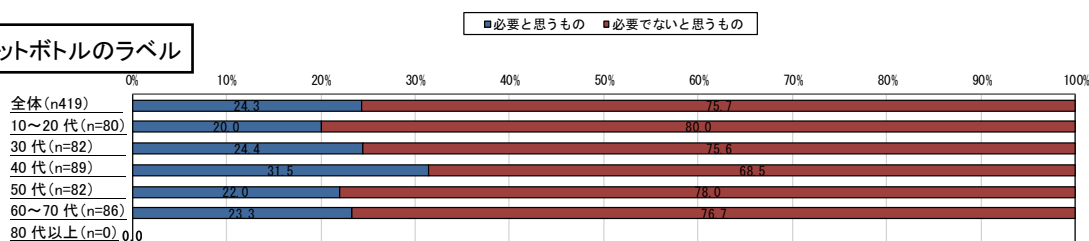
◆お菓子の個包装



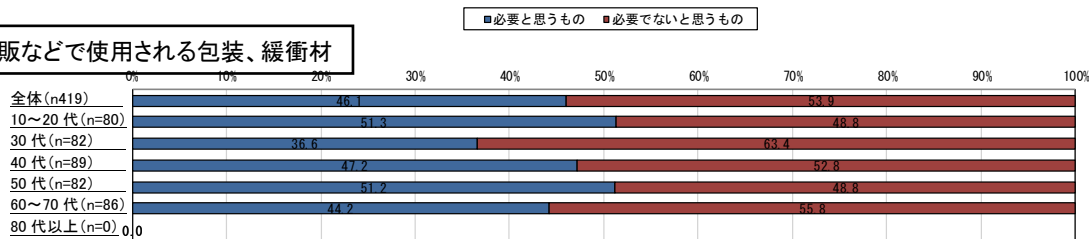
◆ペットボトル



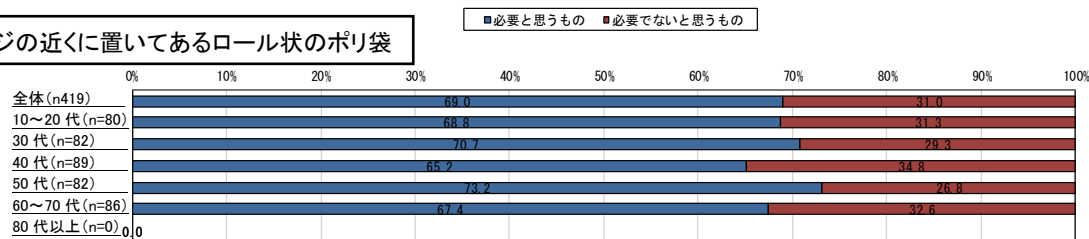
◆ペットボトルのラベル



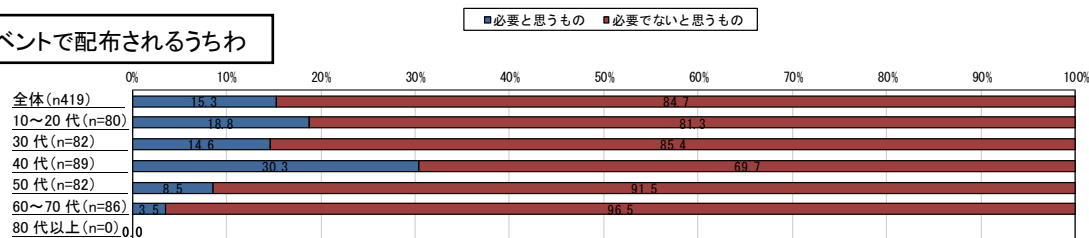
◆通販などで使用される包装、緩衝材



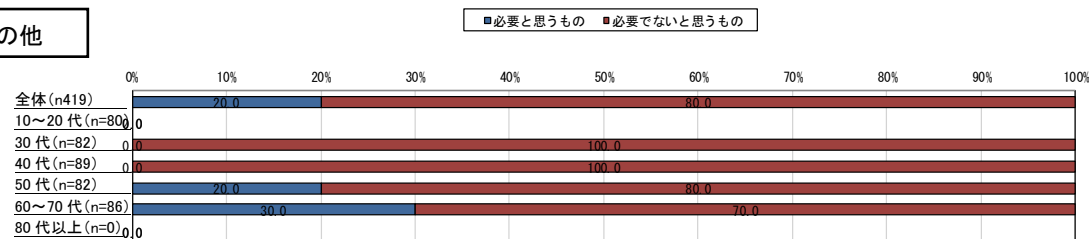
◆レジの近くに置いてあるロール状のポリ袋



◆イベントで配布されるうちわ



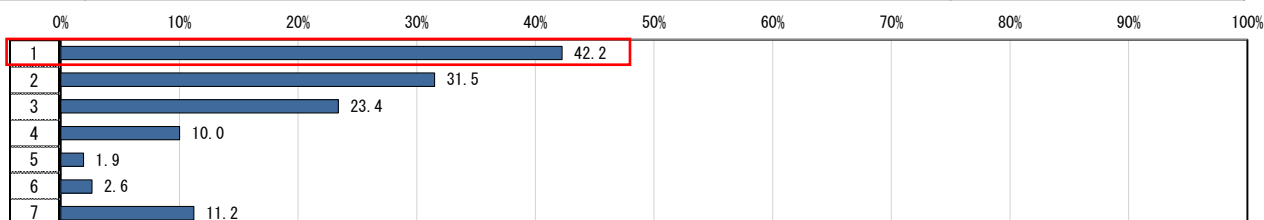
◆その他



問 8 近年、飲食店等でプラスチック製ストローの提供をやめて、紙や自然素材（麦やさとうきびなど）、生分解性プラスチックへの代替品を提供する取組が増えていきます。あなたは、このような取組についてどのように思いますか。

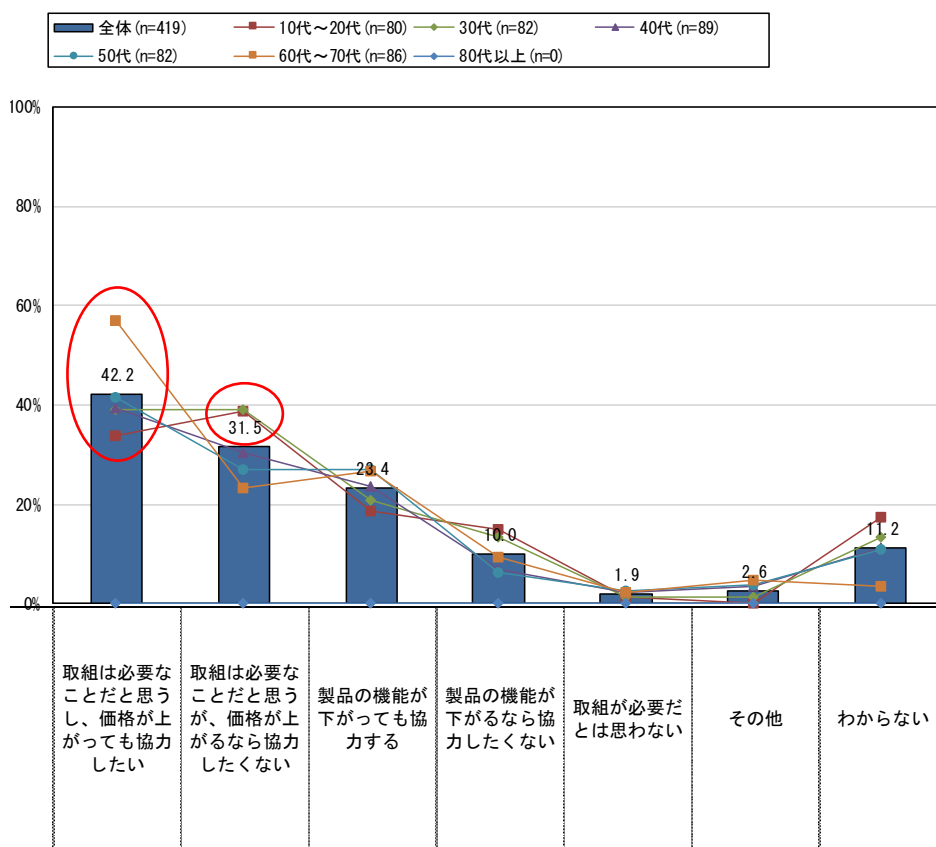
- ・「取組は必要なことだと思うし、価格が上がっても協力したい」と回答した人が 42.2%と最も多く、取組の必要性を感じている人が多い傾向がみられた。

		実数	%
全体		419	100.0
1	取組は必要なことだと思うし、価格が上がっても協力したい	177	42.2
2	取組は必要なことだと思うが、価格が上がるなら協力したくない	132	31.5
3	製品の機能が下がっても協力する	98	23.4
4	製品の機能が下がるなら協力したくない	42	10.0
5	取組が必要だとは思わない	8	1.9
6	その他	11	2.6
7	わからない	47	11.2



【年齢別】

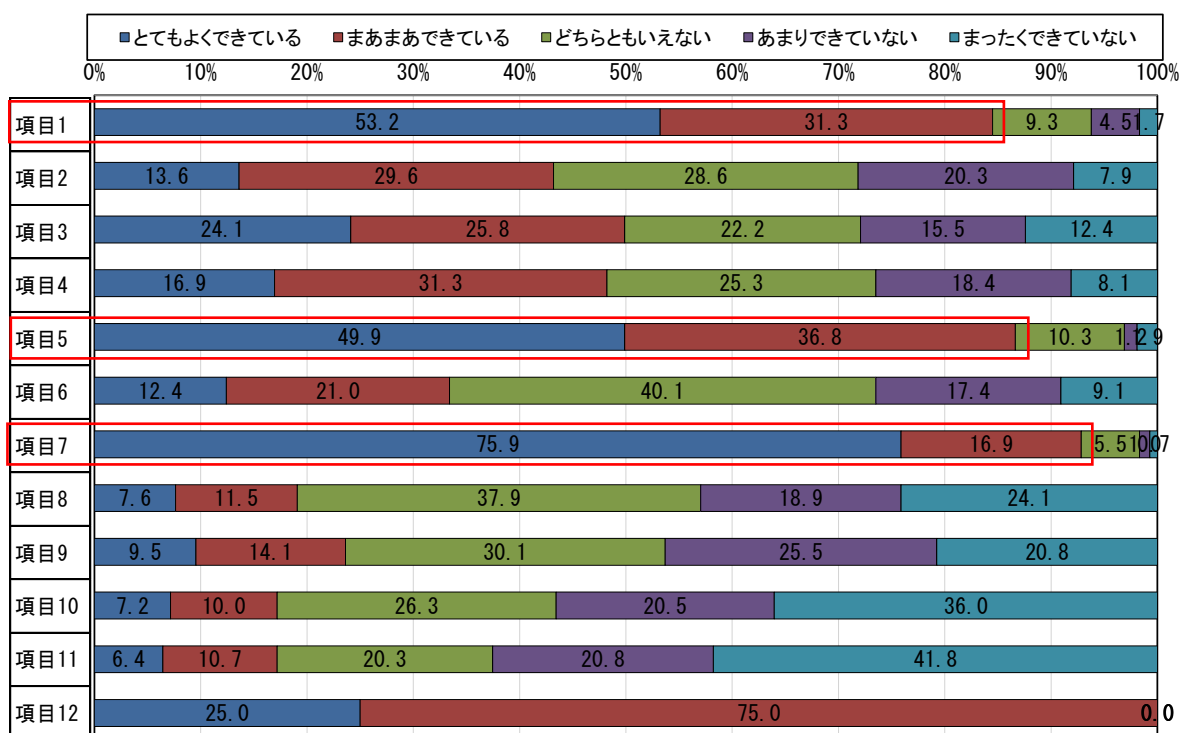
- ・年齢別にみると、60～70代が「取組は必要なことだと思うし、価格が上がっても協力したい」と回答した人が 6 割弱で最も多く、その他の年齢層は同程度の傾向がみられた。一方で、「取組は必要なことだと思うが、価格が上がるなら協力したくない」と回答した人は 10～30代が多い結果となった。



問9 日常生活の中で、プラスチック容器の利用を減らすなど、海を汚さないための行動をどのくらい実践していますか。それぞれもっとも当てはまるものを1つずつ選んで下さい。

- ・ごみの不法投棄、ごみの分別などのごみ処理に関する内容やマイバックを持参しレジ袋の利用を控えるなどの取組を実践している回答が約8割以上と高い傾向がみられた。一方で、海岸漂着のごみ拾い、街中・海岸での清掃活動への参加については2割弱で低い結果となった。

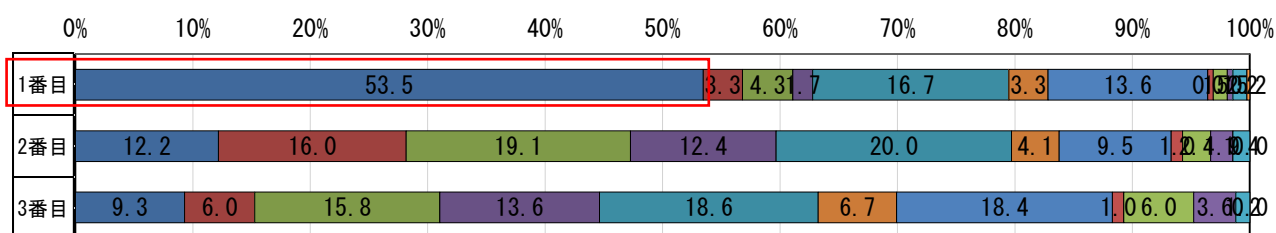
			とてもよく できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	あまりでき ていない	まったく できていない
Q9項目1	マイバックを持参し、レジ袋の利用はできるだけ控える、再利用している	%	53.2	31.3	9.3	4.5	1.7
Q9項目2	スーパーなどのレジの近くに置いてあるロール状のポリ袋の使用を控える	%	13.6	29.6	28.6	20.3	7.9
Q9項目3	マイボトルを持参し、ペットボトルなどの使い捨て飲料容器をできるだけ使用しない	%	24.1	25.8	22.2	15.5	12.4
Q9項目4	スプーン、フォーク、ストロー、おしぼり、アメニティグッズを受け取らない	%	16.9	31.3	25.3	18.4	8.1
Q9項目5	ルールに従って、ごみを正しく分別する	%	49.9	36.8	10.3	1.2	1.9
Q9項目6	再生可能素材（ビン、紙）、植物由来のプラスチックなどを使った製品を積極的に選ぶ	%	12.4	21.0	40.1	17.4	9.1
Q9項目7	ポイ捨て・不法投棄はしない	%	75.9	16.9	5.5	1.0	0.7
Q9項目8	ポイ捨て・不法投棄を見かけたら注意する	%	7.6	11.5	37.9	18.9	24.1
Q9項目9	路上などに落ちているごみを積極的に拾う	%	9.5	14.1	30.1	25.5	20.8
Q9項目10	海岸漂着ごみなどを積極的に拾う	%	7.2	10.0	26.3	20.5	36.0
Q9項目11	街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する	%	6.4	10.7	20.3	20.8	41.8
Q9項目12	その他（その他に実践している行動があればお知らせください）	%	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0



問 10 プラスチックごみ問題の解決のために、今後どのようなことに取り組んでいきたいと思いませんか。今後新たに取り組んでみたいことを重要だと思う順に3つまで選び、選択肢を記入して下さい。

- ・今後の取組については、「マイバッグを持参し、レジ袋の利用はできるだけ控える、再利用している」と回答した人が多く、安定的な取組となっている傾向がみられた。一方、「ポイ捨て・不法投棄を見かけたら注意する」などが低い回答率となっていた。

- マイバッグを持参し、レジ袋の利用はできるだけ控える、再利用している
- スーパーなどのレジの近くに置いてあるロール状のポリ袋の使用を控える
- マイボトルを持参し、ペットボトルなどの使い捨て飲料容器をできるだけ使用しない
- スプーン、フォーク、ストロー、おしぼり、アメニティグッズを受け取らない
- ルールに従って、ごみを正しく分別する
- 再生可能素材(ビン、紙)、植物由来のプラスチックなどを使った製品を積極的に選ぶ
- ポイ捨て・不法投棄はしない
- ポイ捨て・不法投棄を見かけたら注意する
- 路上などに落ちているごみを積極的に拾う
- 海岸漂着ごみなどを積極的に拾う
- 街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する
- その他

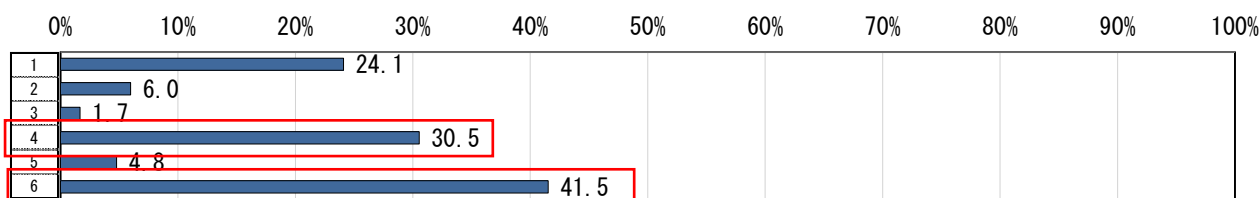


問 11 これまで、プラスチックごみ問題や取組について学んだことはありますか。

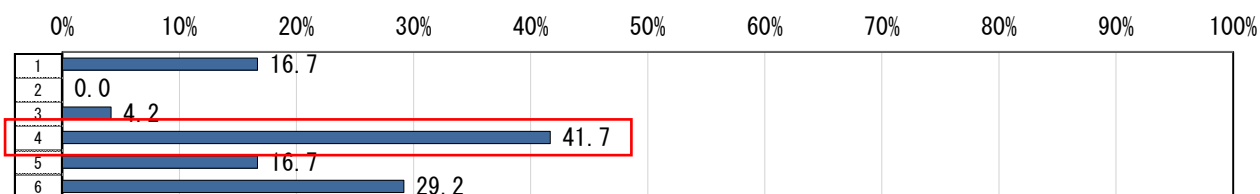
- ・「学んだことがない」と回答した割合が 41.5%で最も多くなっており、手段については「自分で学んだ」と回答した人が多い結果となった。
- ・離島地域では、「自分で学んだ」と回答した割合が 41.7%で最も多く、離島地域住民のプラスチックごみ問題への関心や取組への意識の高さがうかがえる。

【沖縄本島】

		%
全体		100.0
1	学校教育で学んだ	24.1
2	職場で学んだ	6.0
3	公民館講座等で学んだ	1.7
4	自分で学んだ	30.5
5	その他	4.8
6	学んだことがない	41.5

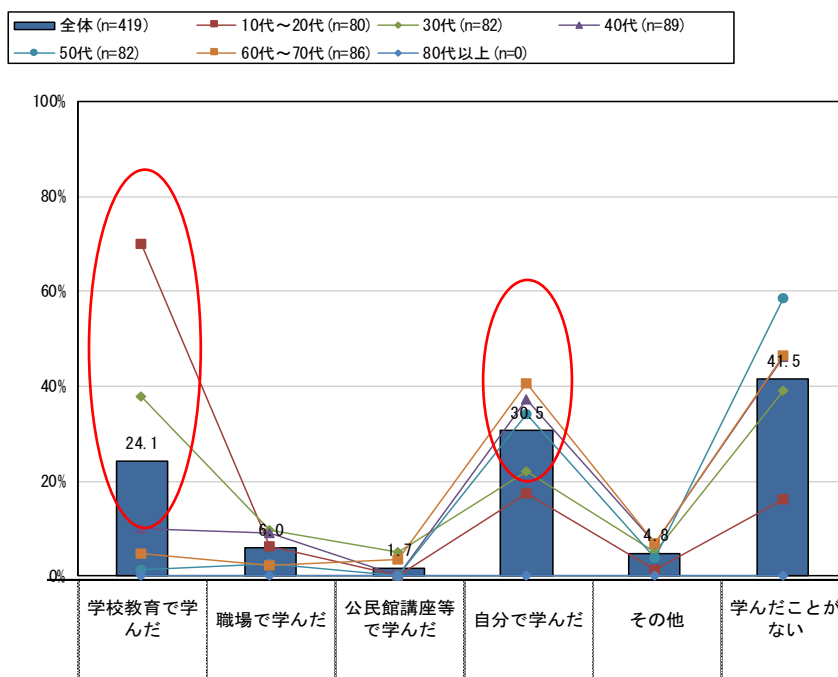


【離島（本島以外の市町村）】



【年代別】

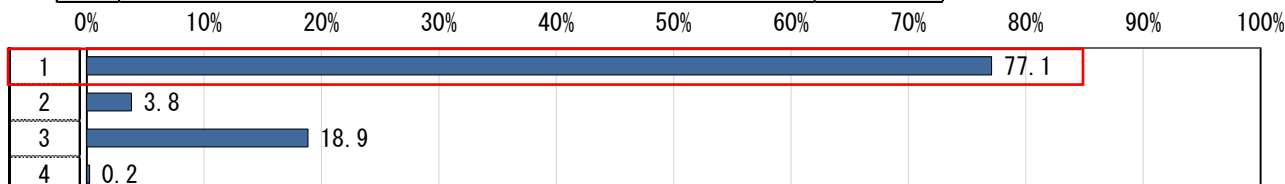
- ・年齢別でみると「学校で学んだ」割合が 10～20 代が 7 割で最も多く、反対に 60～70 代がもっと低い結果であった。一方、40 代、60～70 代は「自分で学んだ」と回答した割合が高い結果となった。



問 12 あなたは、プラスチックごみの削減に取り組んでいる企業を評価しますか。

・「評価する（その企業の商品やサービスを購入する動機となる）」と回答した人が 77.1%で最も多く、プラスチックごみ削減の取組を行う企業を評価する結果となった。

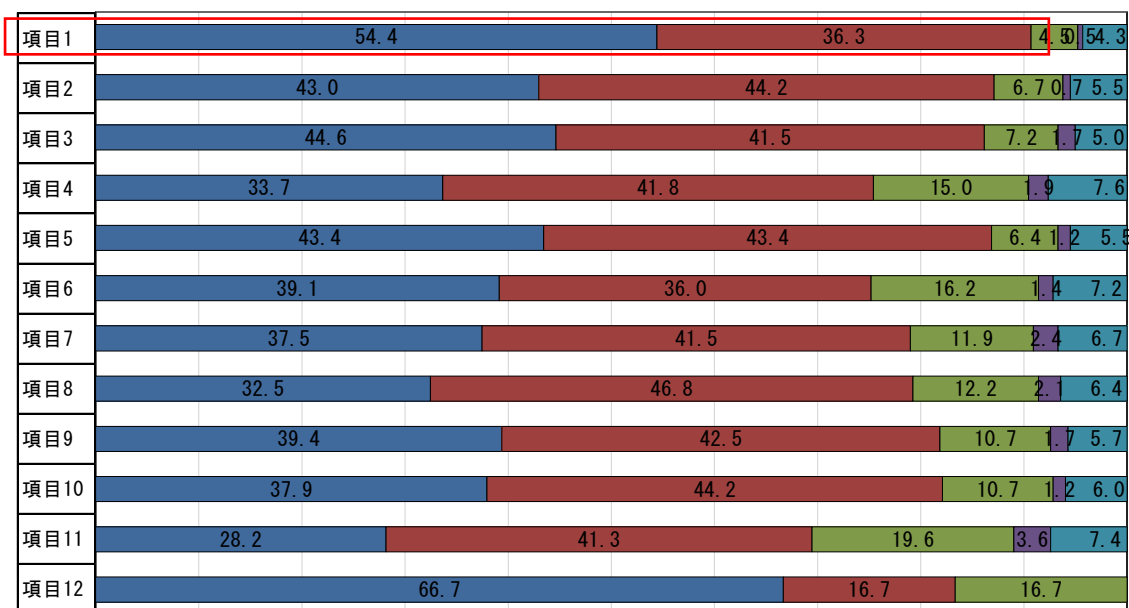
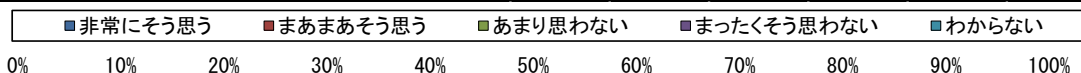
	%
全体	100.0
1 評価する（その企業の商品やサービスを購入する動機となる）	77.1
2 評価しない	3.8
3 わからない	18.9
4 その他	0.2



問 13 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことはなんですか。

・「過剰包装を避ける」について 90%以上の人が企業に望んでおり、その他の削減に向けた取組においてもほぼ 7 割以上が望んでいる結果となった。

項目		非常にそう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	まったくそう思わない	わからない
項目1 過剰包装を避ける	%	54.4	36.3	4.5	0.5	4.3
項目2 必要以上に商品にトレイを使わない	%	43.0	44.2	6.7	0.7	5.5
項目3 製品を開発するときに廃棄後の処理まで考える	%	44.6	41.5	7.2	1.7	5.0
項目4 繰り返し使えるリターンブル容器を取り入れる	%	33.7	41.8	15.0	1.9	7.6
項目5 プラスチックのリサイクルに取り組む	%	43.4	43.4	6.4	1.2	5.5
項目6 ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組みを導入する	%	39.1	36.0	16.2	1.4	7.2
項目7 マイボトルやマイカップの使用を推奨し、使い捨てのプラカップの使用を削減する	%	37.5	41.5	11.9	2.4	6.7
項目8 プラスチックの軽量化により使用量を削減する	%	32.5	46.8	12.2	2.1	6.4
項目9 紙や自然素材（麦やさとうきびなど）、バイオプラスチックをもっと利用する	%	39.4	42.5	10.7	1.7	5.7
項目10 梱包の際の緩衝材を紙などの素材にする	%	37.9	44.2	10.7	1.2	6.0
項目11 スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する	%	28.2	41.3	19.6	3.6	7.4
項目12 その他（その他に企業に望むことがあればお知らせください）	%	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0

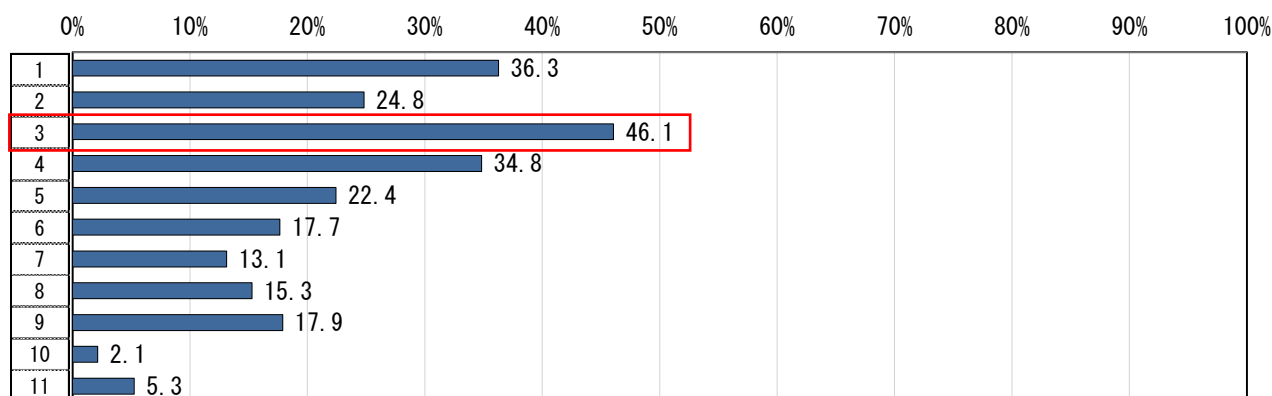


問 14 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことはなんですか。

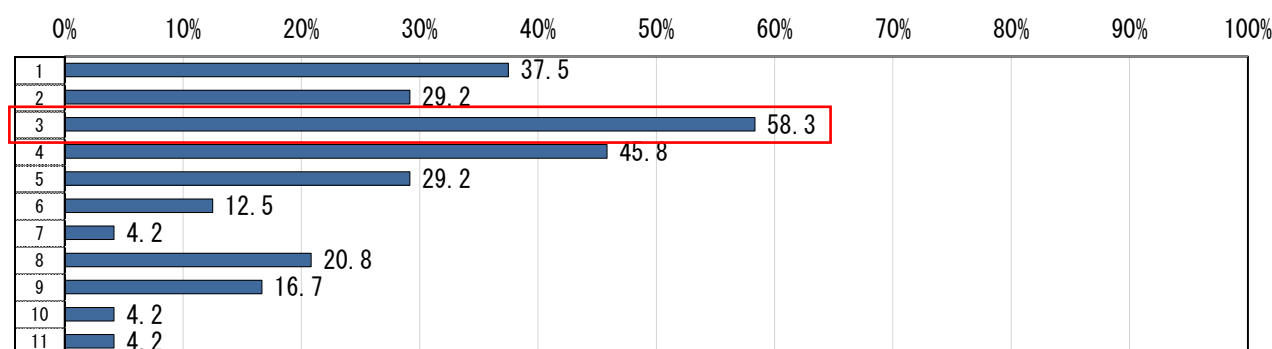
- ・「プラスチックごみ収集とリサイクルのシステムを見直し、改善する」と回答した人が 46.1%で最も多く、県内におけるリサイクルシステムの構築への要望が多い傾向がうかがえる。
- ・離島地域においても同様な傾向がみられており、沖縄県全体よりもさらに回答率が高い 58.3%となっており、島嶼ならではの要望が反映された結果となった。

【沖縄県全体】

全体		%
	全体	100.0
1	プラスチックごみ問題を広く普及啓発する	36.3
2	行政・企業・NPO法人・消費者団体が連携して、削減目標を立てて取り組む	24.8
3	プラスチックごみ収集とリサイクルのシステムを見直し、改善する	46.1
4	ポイ捨てに対する罰則を厳しくする	34.8
5	プラスチックごみの削減に取り組む企業を評価する仕組みを作る	22.4
6	脱プラスチックに配慮した企業を支援してくれる	17.7
7	キャンペーンを行い、河川清掃、海岸清掃に参加するよう呼びかける	13.1
8	地域の清掃活動を活発化し、ごみが落ちていない街にする	15.3
9	ごみ箱を整備する	17.9
10	その他	2.1
11	行政に望むことはない	5.3

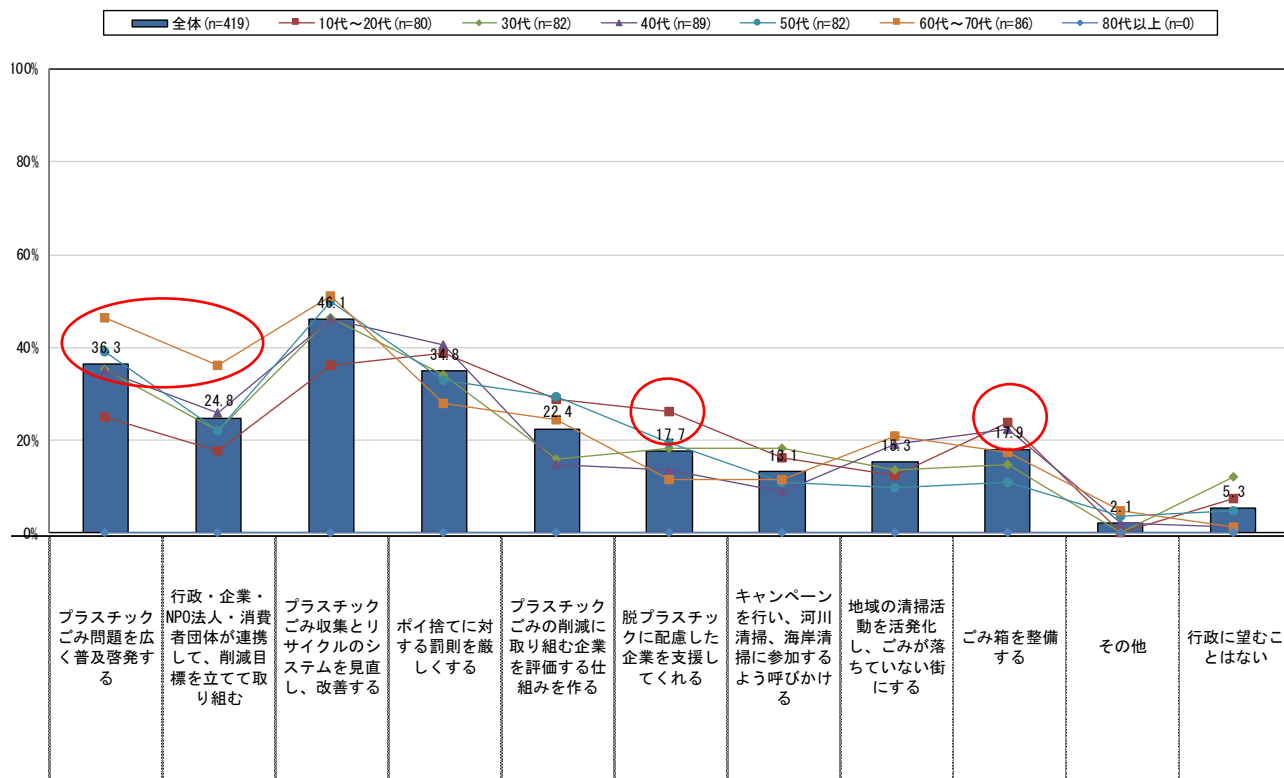


【離島（本島以外の市町村）】



【年齢別】

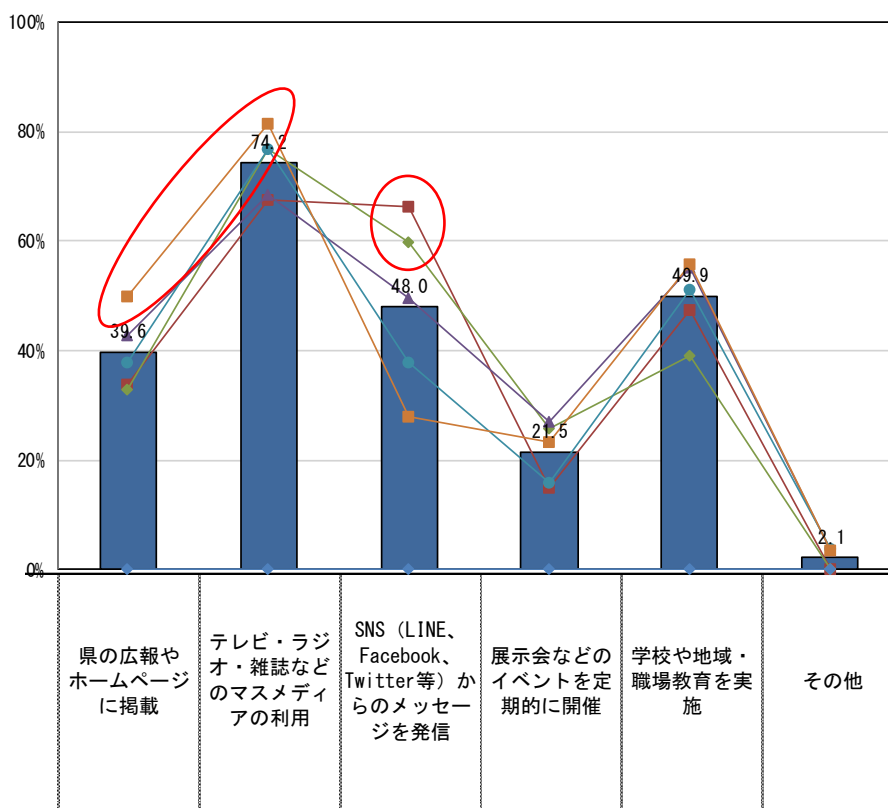
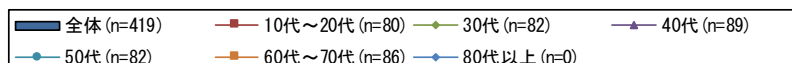
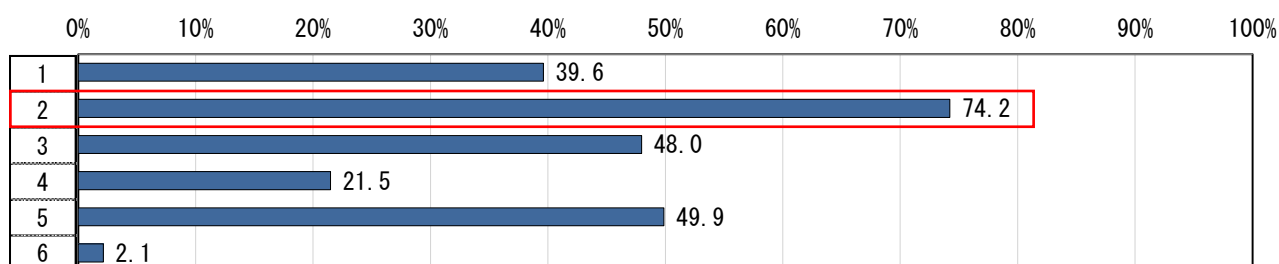
・年齢別にみると、それぞれの年齢層に応じて行政への要望事項が異なっており、60～70代では各主体の連携した取組、普及啓発などの回答が多く、10～20代などではごみ箱の整備、脱プラスチックに配慮した企業への支援などの割合が高い結果となった。



問 15 沖縄県の脱プラスチックの取組について、皆さんに知っていただくためには、どのようなことが有効だと思われますか。

- ・「テレビ・ラジオ・雑誌などのマスメディアの利用」の回答が 74.2%と最も多く、次いで「学校や地域・職場教育を実施」が 49.9%、「SNS からのメッセージを送信」が 48%と高い結果となっており、啓発等に当たっては今後これらの結果が参考になる。
- ・年代別で見ると、考え方の違いが顕著にでており、年齢層が高いほど県の広報、h p への掲載、テレビ等のマスメディアの利用の回答が多く、10~20 代、30 代などの若年層では SNS からのメッセージ発信などの回答が多い結果となった。

		%
全体		100.0
1	県の広報やホームページに掲載	39.6
2	テレビ・ラジオ・雑誌などのマスメディアの利用	74.2
3	SNS (LINE、Facebook、Twitter等) からのメッセージを発信	48.0
4	展示会などのイベントを定期的 to 開催	21.5
5	学校や地域・職場教育を実施	49.9
6	その他	2.1



問 16 その他で意見等がありましたらご自由に記入して下さい。**①ペットボトルについて**

- ・ペットボトルのラベルがはがしにくいものが多い。企業の改善と今後ペットボトル飲料はすべて販売をなくす取り組みをしてほしい。ポイ捨ての罰金制度を作るべきである。
- ・ペットボトルのラベルは必要ないと思います。 現にお茶でラベルなしがあります。
- ・ペットボトルの回収は本当に効率的に行われているのか？ 分別回収のほうが経費、エネルギー使用量が多くなってないか。
- ・ペットボトルの水を買う人が多い。生ごみ処理機には補助みたいなのがあるから、浄水器にも補助金が出るようにしたらいいと思う。
- ・ペットボトルの買取り制度を作るべき。

②モラル、意識向上

- ・モラルの問題が、大きい。
- ・一人一人のモラルが大切だと思うので、まず家庭教育をしっかりすることが時間はかかりますが一番効果のあることだと思います。
- ・一人一人の意識の向上が、とても大事だと思う。
- ・沖縄県はポイ捨てが多いので、啓蒙活動が必要です。
- ・沖縄県民は海を大切にしない人が多い。沖縄の海が世界的にどれだけ綺麗か知らないで生きている。
- ・海洋汚染に関する正しい知識が何よりも先に必要なことだと思っています。対策はその正しい情報をもとに判断し実行していくのが効果的であると考えます。
- ・近所などを散歩している時、コンビニやスーパー、自動販売機などで軽食をとった際、すぐに使えるゴミ箱などが全く見当たらないことが多いため、県民、店舗などの一人一人の意識が大切なことではないかと考えている。
- ・県内企業の取り組みをして、日本全国に広めるくらいの意識改革が必要。
- ・個人の認識が大切だと思う。
- ・住民のポイ捨てが多く、マナーが悪いと感じています。
- ・特に沖縄県については、公共マナーの徹底を最重点に啓蒙、教育を実施するべき。
- ・プラスチック問題や環境問題は、企業の努力はもちろん、個人の意識改革が一番だと思う。マイバックが定着してきたように、気長に努力すれば必ず良くなると思う。
- ・ゴミを出さない生活をするのを啓蒙すること。
- ・毎日、金武町の漁港に散歩する。釣り人のボトル、釣り糸、弁当のプラスチックを捨てていく。マナーが悪い。注意したら逆ギレされる。

③今後の取組について

- ・ある一定数で積極的な協力は得られないと思うのでゴミは発生しない方法に力を入れるべきだと思う。
- ・沖縄がプラスチックの環境に対する先進県になってほしい。
- ・学校でプラスチック問題についての講演会などがあればいいと思う。
- ・学校で指導して、子供の時からゴミに関心を持たせる事は大事、きれいな家、町、国にする事を自然に身に付けていく事は大事。

- ・観光リゾート施設からのプラスチック廃棄量を減らすべきだと思う。
- ・企業がプラスチックの使用を減らしたり有料でサービスを提供するようになると個人の使用量も減る可能性があると思います。
- ・企業の努力が必要。
- ・保育園や幼稚園の行事の一つにする。保護者と参加することで楽しく取り組める。ご褒美になにかプレゼントを用意する。お菓子とステッカーとかでも喜ぶ。
- ・環境対策をしている企業を、県が評価していく。もし、すでにしているなら、もっと周知する。善い行動をどんどんつなげていく形がいいな。例えば、リサイクル可能なプラスチックをイオンやサンエーへ持って行って、ポイントが貯まるようにする→自治体が集めたリサイクル可能品の売り上げを、動物の保護活動費などへつなげる。
- ・個人でできることは限られているのでメーカーがプラスチックに代わる容器をかんがえるべき。沖縄はビーチでのごみ掃除ツアーなど観光客を巻き込んだキャンペーンなどをしてほしいと思う。
- ・小泉さんの行ったプラスチック削減を今度も続けてほしい。
- ・少なからず協力したいと改めて感じた。まずは出来ることから始めたい。
- ・沖縄には、あまりプラスチックの回収スペースも無いように感じる、だからみんな家でパックを捨てたりする。回収スペースをいろんなところに作れば改善するかもしれない。
- ・那覇市に引っ越してきてまだ1年ですが、ポイ捨てが多いことにとっても驚いています。学校や地域でごみ拾いをみんなでするように何か活動をした方がいいと思います。
- ・プラスチック製品をものすごく高価にして買いにくくする。その代わりにガラスや金属性など非プラスチック製品を安く買えるようにする。
- ・どこに行けばゴミ拾いのイベントに参加できるかが分からない。
- ・スーパーの惣菜に使われているプラスチック容器の使用を禁止するか、税金をかけましょう。

④行政への要望

- ・ゴミの問題は、個人に起因する問題が非常に大きく、国や地方自治体の取組だけでは限界がある。罰則などを強化してもいいのではないかと思料する。
- ・政治家の皆さんもこの問題に関係ある法案などを検討して実行可能な法律を作ってほしい。
- ・ポイ捨ての厳罰化。
- ・行政が取組むと結果税金が高くなり無駄な事業だけが増えるので行政が関わらない仕組み作りをして欲しい。

⑤反対意見

- ・メディア、既得権益者の温暖化の嘘で金儲けの道具にされている事に気づかない。
- ・リサイクルが確立しているポリ袋を槍玉にあげるような無意味な活動をやめる。
- ・レジ袋の有料化やプラスチックストローの見直しとか、方向性が違うと思います。そもそも、プラスチックでなければならぬものの搾りだしや、一番多い製品は何なのかという調査も必要では。企業、消費者、行政の協力、意識を変えないと抜本的な対策望めないのでは無いでしょうか。
- ・レジ袋有料化は廃止するべき。
- ・プラスチックは必要。環境問題は虚構。

- ・プラスチック削減はわかるが、紙ストロー導入はやめてほしい。飲んでいるとストローが水分を吸って飲みにくい。

⑥その他

- ・みんなで頑張る気運を向上させる。
- ・翁長元県知事が那覇市長の時に市民大学でゴミ問題について学びました。未来のために力を入れていて大変興味深く実践へつながっています。
- ・環境問題は、気づいたらすぐ対応するべきだと思う。
- ・変に分別しても、大変だし、燃やすのが一番かも。
- ・子孫に自然を残して行きたい。
- ・自分のことから改善し努力したいと思います。
- ・車から火のついたタバコの吸い殻、空き缶やペットボトル、レジ袋入りのゴミを平然とポイ捨てするのは環境にも悪いが危険も伴うので通報は必至だと思います。このことは国も真剣に取り組んでほしいです。
- ・きれいな海が取り返せる様な取り組みを考えていきたい。
- ・ゴミの不法投棄を無くす。